

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	急性期看護学特講 Advanced Critical Care Nursing			担当 教員	江川 幸二 (専 任)
開講年次	1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目 実践看護学	授業形態	講義・演習
選択必修	選 択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		生命危機の状況が人間に及ぼす影響を理論的に追求し、有効なケア構築のための課題を明らかにする。					
授業のキーワード		ストレス・コーピング、危機、ケアリング、自己概念、看護倫理、急性期と日常生活、急性痛					
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						
第1回	クリティカルケアの特徴と看護の役割 ＜急性期看護を理解するための概念とその活用＞						
第2回 ～ 第3回	ストレス・コーピング 生体侵襲および急性期における心理的社会的ストレスと介護介入 最近のストレス研究を抄読し、討議する						
第4回 ～ 第5回	危機理論 急性期における不安・危機と介護介入 術後せん妄を中心に文献抄読、事例検討						
第6回	自己概念						
第7回 ～ 第10回	急性期におけるケアリング（文献検討） 急性期における研究、ペナーの文献抄読を中心に討議 ＜急性期にある患者の身体的、心理・社会的ニーズとその管理＞						
第11回 ～ 第12回	急性期と日常生活 （活動、睡眠、食事を中心に）						
第13回	急性痛						
第14回 ～ 第15回	急性期における看護倫理 事例検討						
テキスト	なし						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ドナC. アギュララ（小松源助，荒川義子訳）：危機介入の理論と実際，1977，川島書店 ・リチャードS. ラザラス，スーザン フォルクマン（本明寛他訳）：ストレスの心理学，1991，実務教育出版 ・小川道雄：新・侵襲とサイトカイン，1999，メジカルセンス ・アルバート. バンヂューラ（本明寛，野口京子訳）：激動社会の中の自己効力，1997，金子書房 ・メイヤロフM.（田村真他訳）：ケアの本質、生きることの意味，1998，ゆるみ出版 ・看護におけるケアリングの概念，看護研究、26(1)，1993 ・Patricia Benner 他：CRITICAL WISDOM AND INTERVENTIONS IN1 CRITICAL CARE,1999,W. B. SANDERS COMPANY ・L. BrianR, W. Thomas. E（菅井直介訳）：急性痛の管理：実践ガイド,1994,克誠堂出版株式会社 ・Margo M, Alexandra B（季羽倭文子訳）：痛みの看護マニュアル,1989,メジカルフレンド社 						
成績評価の方法	プレゼンテーション(60%)、参加態度(40%)						
教員から学生へのメッセージ							